

新しい世界へ踏み出すとき

入園式から1週間がたちました。

年少組のちゅうりっぷ組の子どもたち15名は、毎日元気に幼稚園に来ています。

朝、その子どもたちが登園してくるのを見てみると、迎えるわたしたちも本当に元気になってきます。

「遅れちゃった!」と、送ってきたお母さんを置いて、自分一人で駆け込んでくる子がいたり、先生に「今日は、昨日壊れちゃったチョウチョをつくるの・・・。」と言って、真っすぐ部屋に向かう子がいたりします。また、保育室に向かって歩きながら、何度も何度も振り返って、お母さんが見ていることを確かめている子もいます。

朝の玄関には、子どもたちひとりひとりの様々な思いがあふれています。

中には、お母さんに抱っこされてくる子もありますが、その子も玄関で、お母さんと何かお話をしたあと、お母さんに「行ってらっしゃい。」と言われると、「ママ、行ってきます!」と言って、真っすぐ前を向いて保育室へ歩いていきます。

また、お母さんと別れてから、ひとりで「よし!」と言って、自分の部屋に向かう子もいたりします。

子どもたちは、今日は何をやるのかな、何が起こるのかなとワクワクする気持ちと同時に、何か心配なことがあったり、一人になるのが怖かったりして、家に帰りたいたいという気持ちもどこかにあるのだろうと思います。それは元気いっぱいの子だって同じなのではないでしょうか。

それでも子どもたちは、勇気を出して、えいやっと新しい世界へ一歩を踏み出していきます。そうやって子どもたちはどんどん自分の世界を広げ、成長していくのだろうと思います。

こういう健気な子どもたちの姿を見ていると、ひとりひとりがとてもいとおしく感じられてくるのです。

子どもたちの、未来を拓こうとする強い意志のようなものを感じることができる朝の玄関が、私は大好きです。

